

資料編

－青少年健全育成（調査・研究）「若者自立支援」について－

I. 調査・研究の背景と問題意識

1. テーマ設定の背景 ー若者自立支援を選定した背景ー

マツダ財団は設立から一貫して、青少年健全育成の柱のもと、数々の事業を進め、その対象は幼児から大学生まで、幅広く展開してきた。マツダ財団趣意書には、青少年健全育成の最終的なゴールは明記されていないが、「社会人として独立して人生が送れるようになること」であることは明確である。

そうであれば、青少年の最終的なステージと言うべき、「社会人になる直前の若者」あるいは「社会に出て間がない若者」に焦点を当て、彼らの自立・成長を支援すること無しに、青少年健全育成という事業の完結と言うことはできないのではないだろうか。言い換えれば、上記若者の自立・成長支援の領域に我々としての答えを見いだしなければ、青少年の健全育成に貢献できたとは言えないのではないだろうか。

このような視点に立って、「若者」に焦点を当て、彼らを取り巻く環境、彼らの実態、将来に向けての問題点、解決すべき課題を明らかにし、彼らの自立・成長支援を目的に新規事業に取り組むこととした。

2. 問題意識

2. 1 問題の誘因と考えられる事項

(1) 若者を取り巻く環境

① 「人口オーナス(ONUS)」

人口構成の変化が経済にとってマイナスに作用する状態で、働く人よりも支えられる人が多くなる状況である。オーナス(ONUS)とは、「重荷、負担」という意味である。日本では少子高齢化が顕著になってきた90年頃から人口オーナス期に入ったとされ、今後長期にわたって若者に社会的負担が降りかかってくる要因である。若者一人当たりの社会保険・年金等の社会コストは今後増加の一途をたどり、2050年には日本は世界一の人口オーナスとなる、との予測がある。あくまでも人口構成に起因する問題であり、若者自体に原因は無く、彼らの将来に対する希望を削ぐ長期的、かつ最大の要因である。

② 日本社会の制度疲労(「戦後」から「災後」へ)

i) 戦後社会のパラダイム崩壊

“戦後は「二つのメリトクラシー」、即ち、高学歴・優良企業・高収入と言うルートと、腕一本・一国一城の主というルート、で成立していた。” (『不平等社会日本、さよなら総中流』佐藤 俊樹)

大学への進学率は増加の一途で、大学卒の価値が希薄化し続けている。戦後大きな受け皿として機能していた企業も、長期の景気停滞で全く余裕が無くなり、大学を卒業して大企業・優良企業に入る、というルートは崩壊し、大学を出ても就職が保障されなくなっている。

一方、学歴とは無関係の、手に職をつけて店を営む等、当自営業で成立するルートは、以前は主流派であったため周りに身近な目標があったが、見習える人が身近に居なくなり、ハードルが高くなっている。

ii) 中央政府の限界

東日本大震災の後、震災復興の方向性は見えず、地方と中央の軋轢は増しており、中央政府による地方の管理の限界が散見されるようになった。一方で、地方税財の停滞からの脱出・活性化は不可避となっており、中央主導から地方主導にシフトしていくことが必然になると想定される。

③ 豊かな社会

戦後の高度成長により、日本は確実に豊かになった。団塊の世代がけん引した経済成長で、日本経済は拡大の一途をたどり、親の世代、高齢者は豊かになった。経済的なゆとりに伴い、文化の幅も深さも拡大し、文化・芸術・芸能・趣味等がビジネスになる社会となっている。

④ 親世代の高齢化

団塊の世代を筆頭に、親の世代は一律に豊かであり、子ども達の多くは、経済的にも文化的にもあるレベル以上の生活ができていた。だが親世代は、子どもが独立するステージを既に迎えており、今後は高齢化が進む。子どもたちは親の支援が期待できない状況になることも想定される。また、これから親になる世代は、経済成長が止まった時代を長く経験しており、子どもの支援ができるほどの余裕がない親が多数となることが推察される。

(2) 若者の価値観の変化

① 若者の生活満足度・幸福度は世界一

豊かな社会に生まれ、幼少年期を過ごした若者は、上述の豊かな親世代のもと、生活に不安は無く、幸福度は世界でもトップレベルになった。

現状での生活満足度は非常に高い一方、将来への期待は非常に低く、強い不安を持っている。日本社会への発展の期待は全く持っておらず、現時点の生活を支えている親の高齢化も含めて、将来の不透明さに大きな不安を持っている。

② 若者の新しい動き

今は幸福だが将来への不安は強い現在の若者。戦後から今までの経済的なゆとり・物の豊かさを志向した、いわば単純な価値観とは全く異なる多種多様な価値観を持っている。阪神大震災・東日本大震災を経て、自ら進んでボランティアを希望する社会性を持ち、都会より地方での生活に意義を感じる若者も増えている。

③ 「生き方」と「働き方」のアンマッチ

“戦後の社会は、生活の安定・向上を目指して、シンプルな目標に向かって、迷うことの少ない時代であったが、一旦目標を実現した社会では、若者は目標を模索し始める。それぞれが重視するものにこだわり、「マネーリッチ」「フレンドリッチ」「タイムリッチ」「マインドリッチ」等々、多種多様な方向を志向している。一方で、日本人は、自分の「会社の仕事に対する満足度」は世界最低レベルにある。「生き方」と「働き方」にアンマッチがあるのが大きな要因だろうが、辞めようにも辞められないのは、企業を辞めたらリスクが大き過ぎる日本の社会保障体制が大きく影響していると考えられる。”（『僕たちの前途』古市 憲寿）

④ 冷静かつ客観的に先を見ている

バブル崩壊以降、経済成長を経験していない若者は、自分達の親より豊かになるとは考えていない。高齢者人口が増え続け、社会的費用の負担が増えることも理解している。政府への期待は全く無く、自らを守るのは自己防衛以外には無いと判断している。現実的な見方で今を楽しみ、不確実な将来に備えて

蓄え、リスクを伴う冒険はしない。これは論理的な判断の帰結と考えるべきで、決して責められるものではないのではないかと。責められるべきは、彼を「消極的」に見せている、終戦以来変わっていない社会システムであり、将来に希望を持たせられていない政府の方であろう。

2. 2 若者に関わる問題と課題

(1) 将来に明るい希望が持てない

人口減少に伴う市場の縮小・高齢化による負担の増加等々、豊かな将来を描こうにも、その材料が無い。

(2) 失敗しても挑戦できる「敗者復活」できる仕組みが全く無い

上記のように様々な理由で企業を離れ正社員でなくなると、非正規労働者となり、更には「社会的引きこもり」に陥るケースも増加している。つまりは、日本の労働システムから「ドロップアウト」することになる。このように一度「ドロップアウト」してしまうと、元に戻ることは極めて困難である。上述したように、企業に所属すれば、健康保険・雇用保険・福利厚生等を受けられることができるが、企業を離れると一切無くなる。また、現代日本では、一度失敗した若者が再度挑戦できる「敗者復活」の仕組みは無い。「企業」を離れると失うものがあまりにも大きく、これが、現在の若者が「挑戦」しなくなっている非常に大きな要因となっているのではないかと。

(3) 就職＝「就社」以外の働き方を知らない若者が急増

一方、教育に目を向けてみると、高校では普通科、大学は専門科目の教育に偏重している。社会人として必要になる知識・経験が不足したままで卒業するため、企業に就職する以外の選択肢を持たない若者が大多数となっている。これは社会での活動の自由度を落とし、企業の中で不満を持ちつつ仕事を続ける、という社会・企業・本人のいわば「一挙三両損」となっている。

2. 3 問題意識

(1) 現在の若者の実態

上記で述べた事は、文献で言われている「若者の実態」であるが、広島現在の若者には当てはまっているのか、まずは先入観を持たず、中立に客観的にその事実を把握したい。

(2) 岡山での調査・分析との比較

吉備国際大学の嚮田准教授による岡山県でのインタビュー調査と分析をまとめた論文があるが、この結果と広島における調査・分析結果を比較することで、新しい Findings があるのではないかと。

(3) 「広島の若者に希望を」のための課題の発掘

今回の調査を通じて、広島の若者が抱える本質的な問題点が明らかになり、広島の若者が希望を持てる一助となる事業を実現するための課題を明確にすることが、本調査の目的である。

II. 検討の経緯

1. マツダ財団「14 中期事業計画」の検討（2013 年）

マツダ財団は、設立趣意書に謳っている科学技術の振興と青少年健全育成を目指して活動を続けているが、これをもう一段階ブレークダウンし、中期的、具体的な目標も立てている。約 4 年ごとの中期事業計画を策定した取り組みである。中期事業計画策定では、前回の中期事業計画の達成度に現在の内外の環境を踏まえ、今後約 4 年間の中期事業計画を検討するというプロセスを採っている。

「14 中期事業計画」の策定の中で、事務局内で討議を重ねる形で、上記 3 つの問題意識が抽出された。

2. 吉備国際大学 轡田竜蔵准教授との協議

2. 1 轡田先生に対する調査研究事業（委託研究）の提案（2013 年 11 月）

2013 年 10 月 2 日の中国新聞「オピニオン」欄に掲載された轡田先生のインタビュー記事により、当財団の問題意識の方向性との共通点が多い、との意識から、マツダ財団より轡田先生に対し調査研究事業の提案を行った。

(1) 提案の目的

- ① 轡田先生の「地方における若者」に関する研究の促進を支援する。
- ② マツダ財団の若者自立支援事業構築に向け、轡田先生の研究成果を活用する。
- ③ 轡田先生の研究とマツダ財団の活動との相乗効果を創出する。

(2) 提案の内容

- ① 広島地域での実態調査の委託（広島の若者の実態把握と問題分析）
- ② マツダ財団の調査研究活動に対する専門・学術的な面からのアドバイス
- ③ 事業化に向けた諸活動の協働

2. 2 調査研究事業に関する合意事項（2013 年 12 月）

(1) 問題意識、目的、方法

その後の轡田先生とマツダ財団との協議の中で、上記提案の内容である、「若者実態調査、問題研究」「学術研究」「事業化への展開」という問題意識は概ね共有できていることが確認でき、轡田先生からも具体的な調査方法として、これまで実施したことのない、地域限定のアンケート調査とインタビュー調査という提案があった。

(2) 調査地域

最終的には轡田先生に適切と考えられる地域を選定いただくが、調査で確認したいことが明確に出てくると考えられる、地方郊外型と地方田舎型の二地点としたい。

(3) アウトプットイメージと事業化

地域と若者が関わって生きていく中で、若者は何によって行動を起こすような気にさせられるか、何があったら一步を踏み出すのか、ということが見つけられれば、それに対して我々はどう支援できるかという部分で、事業に結び付けられるのではないかと。

Ⅲ. 調査活動

齋田先生の主導により、具体的な調査方法等は以下の通りとして調査を実施することとなった。

1. 調査対象地域の選定

広島都市圏の中心と周辺の二地点:「地方都市型」として安芸郡府中町、「地方周辺型」として三次市を選定。府中町には、広島県最大のショッピングモールが立地し、広島を中心市街地にもアクセスが良い。人口構成も全国平均と大きな差は無く、人口増減もあまり目立たない。一方、三次市は広島市から1時間以上かかる中山間地で、若年層は少なく、高齢者が多く、人口減少も目立っている地域。

2. 郵送アンケート調査

広島都市圏の若者の実態と意識の全体的傾向を捉えることを目的として、二地点における郵送アンケート調査を実施する。自治体の住民基本台帳をもとにサンプリングを行い、府中町と三次市で各 1,500 人にアンケートを送付する。尚、府中町、三次市には、それぞれマツダ財団の母体であるマツダ株式会社の本社、並びに同三次事業所が位置していることから、マツダ株式会社経由にて府中町役場、三次市役所に郵送アンケート調査への理解と協力を要請し、快諾をいただいた。

3. インタビュー調査

上記郵送アンケート調査では捉えきれない部分を質的に保管することを目的とする。広島都市圏に居住する様々な職業、階層、地域の若者に対し、その多様性に配慮しながら郵送アンケート調査と同じ質問を行ったうえで、それを手掛かりにしたインタビューを行う。ひとりあたり 1~2 時間程度のインタビューを数十人対象に実施。また、若者支援等に関わる関係者に対する聞き取り調査も行う。

Ⅳ. アンケート調査実施「府中町/三次市 20~30 代住民意識調査」(2014 年 7 月)

1. 調査内容

次ページ以降が実際のアンケート調査の内容で、府中町並びに三次市ともに同一内容の調査を実施した。冒頭ページの府中町、三次市からの依頼状、並びにアンケート最終ページの居住地に関する質問のみ、府中町と三次市で異なる部分となっている。調査対象者には、二つの自治体において同内容の調査を実施する旨を伝える。

2. 調査スケジュール

両自治体ともに 7 月 2 日発送、締切は、7 月 31 日投函まで、とした。

3. アンケート回収実績

送付数 3,000 票(府中町、三次市各 1,500 票)のうち、住所異動による不達分を除くと、2,983 票(府中町 1,488 票、三次市 1,495 票)。うち、回収票は 867 票(府中町 404 票、三次市 463 票)、回収率は 29.1%(府中町 27.2%、三次市 31.1%)の結果となった。

4. 2014年7月2日「広島20～30代住民意識調査」アンケート調査票

平成26年7月

府中町民のみなさま

広島若者調査事務局
(実施主体 公益財団法人マツダ財団)

20～30代の方々を対象とするアンケート調査について（依頼）

向暑の候、府中町民の皆様方におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

公益財団法人マツダ財団では、今後の若者支援事業に役立てるために、広島若者調査事務局（担当 吉備国際大学准教授 響田竜蔵^{くつわだりゅうぞう}）をおき、広島県内の若者を対象に調査研究を行っております。そこで、このたび府中町と三次市の二か所で、次代を担う若い住民である20歳以上40歳未満の方を対象にし、その生活実態や現状評価・価値観を捉えるためのアンケート調査を企画いたしました。

また、このアンケート調査は、府中町の協力のもとで行われるものであり、当町が現在策定中である第4次総合計画の参考資料としても役立てられます。

アンケートは、20歳以上40歳未満の町民の方々のなかから、府中町が住民基本台帳から無作為に選び出した1,500人に対し、郵送しております。たいへんお手数をおかけしますが、アンケートを受け取られた方々は、回答へのご協力を宜しくお願い申し上げます。

（同封のボールペンは、回答使用後は、自由にお使いください。）

回収方法

アンケートは、同封の返信用封筒で平成26年7月31日（木）までに投函していただきますようお願いいたします。

個人情報の取扱い

アンケートの中にはプライバシー情報をお伺いする項目がありますが、お答えいただいた内容は統計データとしてのみ使用いたしますので、ご安心ください。

その他

同時期に広島県三次市でも同一内容の調査が実施されます。これらの結果（全体の傾向）がまとまりましたらマツダ財団ホームページ等でのご紹介を予定しておりますので、ご覧ください。マ

ツダ財団ホームページ <http://mzaidan.mazda.co.jp/>

【アンケート返送先及び内容についての問い合わせ先】

広島若者調査事務局
(担当：響田竜蔵^{くつわだりゅうぞう} 吉備国際大学社会科学部准教授)
宛先：〒710-8790 岡山県倉敷市鶴形1-8-15 倉敷郵便局
電子メール：kutuwada@mve.biglobe.ne.jp

【その他、本調査に関する問い合わせ先】

担当：府中町企画財政部企画課計画係
電話：082-286-3122
電子メール：kikaku@town.fuchu.hiroshima.jp

平成26年7月

市民のみなさま

三 次 市 長
(地域振興部企画調整課)

20～30代の方々を対象とするアンケート調査について（依頼）

市行政の推進については、E頃から格別のご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、本市では、次代を担う若い住民である20歳以上40歳未満の方の生活実態やその現状評価・価値観を捉え、今後の魅力あるまちづくりに役立てることを目的として、アンケート調査を行います。調査は公益財団法人マツダ財団を実施主体とする広島若者調査事務局（担当 吉備国際大学准教授 ^{くつわだりゅうぞう} 轡田竜蔵）と共同で実施いたします。

このアンケートは、20歳以上40歳未満の市民の方々のなかから、三次市が無作為に選び出した1,500人に対し、郵送しております。たいへんお手数をおかけしますが、アンケートを受け取られた方々は、回答へのご協力を宜しくお願い申し上げます。

（同封のボールペンは、回答使用後は、自由にお使いください。）

回収方法

アンケートは、同封の返信用封筒で平成26年7月31日（木）までに投函していただきますようお願いいたします。

個人情報の取扱い

アンケートの中にはプライバシー情報をお伺いする項目がありますが、お答えいただいた内容は統計データとしてのみ使用いたしますので、ご安心ください。

その他

同時期に広島県安芸郡府中町でも同一内容の調査が実施されます。これらの結果（全体の傾向）がまとまりましたらマツダ財団ホームページ等でのご紹介を予定しておりますので、ご覧ください。
マツダ財団ホームページ <http://mzaidan.mazda.co.jp/>

【アンケート返送先及び内容についての問い合わせ先】

広島若者調査事務局

（担当：轡田竜蔵 ^{くつわだりゅうぞう} 吉備国際大学社会科学部准教授）

宛先：〒710-8790 岡山県倉敷市鶴形 1-8-15 倉敷郵便局

電子メール：kutuwada@mve.tiglobe.ne.jp

【その他、本調査に関する問い合わせ先】

担当：三次市地域振興部企画調整課企画調整係

（担当：林）

電話：0824-62-6115

電子メール：kikaku@city.miyoshi.hiroshima.jp

「府中町 20～30 代住民意識調査」

2014 年 7 月

ご記入にあたってのお願い

- この調査は、次代を担う若い世代である 20～30 代の皆さんの生活の実態、現状評価、それに関する価値観についてお尋ねするものです。
- 皆さんひとりひとりからいただいたデータは、統計として取り扱い、それをもとに全体的傾向を知ることが目的です。匿名の調査であり、封筒やアンケート用紙から回答者個人を特定することは不可能です。安心してありのままの状況を正直に、できるだけ正確にお答えください。
- 私たちは、調査結果をとりまとめ、若い世代を取り巻く地域や社会の状況の改善を目的とする、各方面での議論に役立てたいと思っています。質問文のなかには答えたくない項目があるかもしれませんが、調査目的に理解をくださり、ご協力いただければ幸いです。
- 2014年7月31日（木）までに**返信用封筒に入れ、ご投函ください。（返信用封筒に差出有効期間が書かれていますが、それは締め切りではありません。）
- 調査結果は、まとめ次第、公益財団法人マツダ財団のホームページ等で紹介されます。是非ご覧ください。
- (1)ご記入は、**あて名のご本人**にご回答をお願いします。
- (2)ご記入は、鉛筆または黒・青のボールペンなどをお願いします。
- (3)お答えは、質問文の説明をお読みのうえ、番号の順に沿ってお答えください。
- (4)回答に必要な時間は約20分です。長くて申し訳ございませんが、宜しくお願いします。
- (5)ご記入が終わりましたら、回答漏れがないかどうかご確認願います。
- (6)可能な限り、すべての質問にお答えください。正確にあてはまる選択肢がない場合でも、ご自分で最も近いと思うものをお選びください。ただし、どうしても答えたくない／答えられない質問がある場合は、飛ばして次の質問にお進みください。
- (7)なお、この調査に関する質問・ご意見等がございましたら、下記の電子メールへお問い合わせください。可能な限りすみやかに返信させていただきます。

〔お問い合わせ先〕

広島若者調査事務局（担当：吉備国際大学社会科学部准教授 くつわだりゅうぞう 轡田竜蔵）

電子メール； kutuwada@mve.biglobe.ne.jp

「三次市 20～30 代住民意識調査」

2014 年 7 月

ご記入にあたってのお願い

- この調査は、次代を担う若い世代である 20～30 代の皆さんの生活の実態、現状評価、それに関する価値観についてお尋ねするものです。
 - 皆さんひとりひとりからいただいたデータは、統計として取り扱い、それをもとに全体的傾向を知ることが目的です。匿名の調査であり、封筒やアンケート用紙から回答者個人を特定することは不可能です。安心してありのままの状況を正直に、できるだけ正確にお答えください。
 - 私たちは、調査結果をとりまとめ、若い世代を取り巻く地域や社会の状況の改善を目的とする、各方面での議論に役立てたいと思っています。質問文のなかには答えたくない項目があるかもしれませんが、調査目的に理解をくださり、ご協力いただければ幸いです。
 - 2014 年 7 月 31 日（木）までに**返信用封筒に入れ、ご投函ください。（返信用封筒に差出有効期間が書かれていますが、それは締め切りではありません。）
 - 調査結果は、まとめ次第、公益財団法人マツダ財団のホームページ等で紹介されます。是非ご覧ください。
- (1)ご記入は、**あて名のご本人**にご回答をお願いします。
 - (2)ご記入は、鉛筆または黒・青のボールペンなどをお願いします。
 - (3)お答えは、質問文の説明をお読みのうえ、番号の順に沿ってお答えください。
 - (4)回答に必要な時間は約20分です。長くて申し訳ございませんが、宜しくお願いします。
 - (5)ご記入が終わりましたら、回答漏れがないかどうかご確認願います。
 - (6)可能な限り、すべての質問にお答えください。正確にあてはまる選択肢がない場合でも、ご自分で最も近いと思うものをお選びください。ただし、どうしても答えたくない／答えられない質問がある場合は、飛ばして次の質問にお進みください。
 - (7)なお、この調査に関する質問・ご意見等がございましたら、下記の電子メールへお問い合わせください。可能な限りすみやかに返信させていただきます。

[お問い合わせ先]

広島若者調査事務局（担当：吉備国際大学社会科学部准教授 くつわりゅうぞう 響田竜蔵）

電子メール； kutuwada@mve.biglobe.ne.jp

- I 最初に、あなた自身の**現状に対する評価とその価値観**について、お伺いいたします。
I-1~10のそれぞれの考え方について、あなたの考えに**一番近い番号**に○印を付けてください。

I-1 生活の現状評価

	4 全くそう思う	3 どちらかと言えば そう思う	2 どちらかと言えば そうではないと思う	1 全くそうではないと 思う
A 総合的に見て、今の生活に満足している。	4	3	2	1
B 一般的な家庭と比べて、自分の生活水準は高いほうだ。	4	3	2	1
C 一般的な家庭と比べて、自分の生活水準は低いほうではない。	4	3	2	1
D 自分の生活は、親から完全に自立した状態である。	4	3	2	1
E 親の援助が全くなくても、今の自分の生活は成り立つと思う。	4	3	2	1
F 毎日の生活が「楽しい」と感じられる。	4	3	2	1
G 金銭的余裕のある生活を送っている。	4	3	2	1
H 時間的余裕のある生活を送っている。	4	3	2	1
I 家族と過ごす時間は満足にとれている。	4	3	2	1
J 友人と過ごす時間は満足にとれている。	4	3	2	1
K 自分の自由な時間は満足にとれている。	4	3	2	1
L 家事(育児・介護を含む)の負担に関する不満はない。	4	3	2	1
M 親との関係に満足している。	4	3	2	1
N 血縁以外に自分を必要とし大切に思ってくれる人(配偶者・恋人等)がいて、その関係に満足している。	4	3	2	1
O 友人関係に満足している。	4	3	2	1
P 現在の住居に満足している。	4	3	2	1
Q 心身ともに健康に過ごせている。	4	3	2	1
R 今後、自分の生活が経済的に厳しくなる可能性について、心配しなくていいと思う。	4	3	2	1
S 今後、(配偶者がいない場合)結婚できないのではないかと、(既婚の場合)結婚生活を続けられないのではないかと、心配しなくていいと思う。	4	3	2	1

	4 全くそう思う	3 どちらかと言えば そう思う	2 どちらかと言え ば そうではないと思 う	1 全くそうではない と思う
(前ページからの続き)				
T 20年後、子育てを経験し、自分を必要とし大切に思 ってくれる人(配偶者・恋人等)と暮らしていると思う。	4	3	2	1
U 20年後、自分は親の生活水準よりも高い暮らしがで きていると思う。	4	3	2	1

I-2 生活についての価値観

	4 全くそう思う	3 どちらかと言え ば そう思う	2 どちらかと言え ば そうではないと思 う	1 全くそうではない と思う
A 余暇の生活を優先させたいので、仕事で長時間働きた くない。	4	3	2	1
B 将来の生活のことを計画的に考えて、お金をなるべく 使わないようにしている。	4	3	2	1
C 環境や健康の問題に関心があり、そのために良いこと ならお金をかけてもかまわないと思う。	4	3	2	1
D 社会情勢を考えれば、今後、生活水準が上がらなくて も仕方ないと思う。	4	3	2	1
E 自分なりにお金をかけずに楽しく暮らす方法はあるの で、今後、生活水準が上がらなくてもかまわない。	4	3	2	1
F 自分の趣味には「おたく」的な要素があると思う。	4	3	2	1
G 自分の趣味には「ヤンキー」的な要素があると思う。	4	3	2	1
H 自分は趣味に関して、個性やこだわりが強いほうだと思 う。	4	3	2	1
I 余暇の時間は、友人仲間とともに楽しみたいと思う。	4	3	2	1
J 余暇の時間は、家族とともに楽しみたいと思う。	4	3	2	1
K 余暇の時間は、一人で楽しみたいと思う。	4	3	2	1
L 親が要介護になったら、子どもが家で面倒をみるの は当然だと思う。	4	3	2	1
M 男性も女性と平等に家事(育児・介護を含む)を分担 するのが当然だと思う。	4	3	2	1

I-3 今の仕事についての現状評価

【現在、収入のある仕事をしていない人、あるいはアルバイトをしている学生の方については、回答せずにI-4に進んでください。】

	4 全くそう思う	3 どちらかと言えば そう思う	2 どちらかと言えば そうではないと思 う	1 全くそうではない と思う
A 総合的に見て、自分の仕事の現状に満足している。	4	3	2	1
B 給料や報酬に満足している。	4	3	2	1
C 毎日の仕事が「楽しい」と感じられる。	4	3	2	1
D 自分は「やりがい」がある仕事をしていると思う。	4	3	2	1
E 今の職業は自分の「天職」だと思っている。	4	3	2	1
F 勤務時間(長さ、時間帯)に関する不満はない。	4	3	2	1
G 自分の仕事ぶりは、仕事で関わる社会の人々に認められていると思う。	4	3	2	1
H 自分の仕事ぶりは、職場の同僚に認められていると思う。	4	3	2	1
I 現在の職場の人間関係に満足している。	4	3	2	1
J 家庭や個人の事情に配慮してくれる、働きやすい職場で働いていると思う。	4	3	2	1
K 今よりよい条件の勤務先に移ろうとか、チャンスを探めて転職しようという考えは持っていない。	4	3	2	1
L 今後の自分自身の仕事の将来について、明るい希望を持っている。	4	3	2	1
M 今後の勤務先の将来(経営など)について、明るい希望を持てると思う。	4	3	2	1
N 20年後も現在の延長線上にある内容の仕事をしていると思う。	4	3	2	1
O 20年後も勤務先を変えずに働いていると思う。【配置転換は、同じ勤務先とみなします。】	4	3	2	1
P 20年後は、今よりも高い給料や報酬をもらって仕事をしていると思う。	4	3	2	1

I-4 仕事についての価値観（現在仕事で収入を得ていない人も、回答してください）

	4 全く そう 思う	3 どちら かと言 え ばそう 思う	2 どちら かと言 え ばそう では ない と思 う	1 全く そう では ない と思 う
A 満足な収入が得られるのであれば、長時間働いてもかまわないと思う。	4	3	2	1
B やりがいのある仕事であれば、満足な収入が得られなくてもかまわないと思う。	4	3	2	1
C やりがいのある仕事であれば、長時間働いてもかまわないと思う。	4	3	2	1
D お互いに協調性があり、同じ目標に向かって全員の一体感のある職場が理想だと思う。	4	3	2	1
E お互いに個人の自由な考えを言い合い、正直な気持ちで付き合える職場が理想だと思う。	4	3	2	1
F 女性は子どもができて、ずっと職業を続けるほうが良いと思う。	4	3	2	1

I-5 現在住んでいる地域についての現状評価

	4 全く そう 思う	3 どちら かと言 え ばそう 思う	2 どちら かと言 え ばそう では な い と思 う	1 全く そう では な い と思 う
A 総合的に見て、現在住んでいる地域の現状に満足している。	4	3	2	1
B 現在住んでいる地域での生活で、交通の不便を感じることはない。	4	3	2	1
C 現在住んでいる地域の外に、買い物や遊びに行く必要を感じない。	4	3	2	1
D 仮に現在住んでいる地域の外に行く機会がなくても、退屈だと感じないと思う。	4	3	2	1
E 現在住んでいる地域には、20～30代の若者や子育て世代が暮らしやすい生活環境が整っている。	4	3	2	1
F 現在住んでいる地域には、20～30代の若者や子育て世代にとって魅力的な仕事の選択肢がある。	4	3	2	1
G 現在住んでいる地域には、20～30代の若者や子育て世代にとって魅力的な地域活動の選択肢がある。	4	3	2	1
H 現在住んでいる地域には、リラックスして付き合える関係の友人が多くいる。	4	3	2	1
I 現在住んでいる地域には、刺激的な人との出会いの機会が多い。	4	3	2	1
J 今後、可能ならば、現在住んでいる地域に住み続けたいと思っている。	4	3	2	1
K 20年後も、現在住んでいる地域か、その近くに住んでいると思う。	4	3	2	1

I-6 地域に関する価値観

	4 全くそう思う	3 どちらかと言えば そう思う	2 どちらかと言え ば そうではないと思 う	1 全くそうではない と思う
A 自分が一生暮らす場所として、中国山地のような「田舎」はいいと思う。	4.....	3.....	2.....	1.....
B 自分が一生暮らす場所として、広島のような「地方都市」はいいと思う。	4.....	3.....	2.....	1.....
C 自分が一生暮らす場所として、東京のような「大都市」はいいと思う。	4.....	3.....	2.....	1.....
D 今後、地域活動に積極的に参加したいと思っている。	4.....	3.....	2.....	1.....
E 現在住んでいる地域にいる多様な人たちと交流することに興味がある。	4.....	3.....	2.....	1.....
F 隣近所の人たちとは、何でも相談したり、助け合ったりできるような深い関係になりたい。	4.....	3.....	2.....	1.....
G 自分や家族のことが優先で、地域社会の問題について考える気にならない。	4.....	3.....	2.....	1.....
H 休日には、なるべく現在住んでいる地域以外の場所に出かけたいと思う。	4.....	3.....	2.....	1.....
I 長い休みがとれたとしたら、海外に行くなど遠出をして、見聞を広めることに興味がある。	4.....	3.....	2.....	1.....
J 近所の商店街には、大型商業施設や大型小売店にはない魅力があるので、行ってみたいと思う。	4.....	3.....	2.....	1.....
K 現在住んでいる地域に、大型商業施設や大型小売店が増えれば嬉しく思う。	4.....	3.....	2.....	1.....
L 現在住んでいる地域の開発が進むことで、安全で安心できる暮らしが失われることが心配だ。	4.....	3.....	2.....	1.....
M 現在住んでいる地域での生活には、自家用車は欠かせないと思う。	4.....	3.....	2.....	1.....
N 現在住んでいる地域に、外国人等の多様な住民が増えるのは良いことだ。	4.....	3.....	2.....	1.....

I-7 日本社会や政治についての現状評価

	4 う 全 く そ う 思	3 う え ば そ う 思 ど ち ら か と 言	2 え ば そ う で は な い と 思 う	1 全 く そ う で は な い と 思 う
A 総合的に見て、日本社会や政治の現状について満足している。	4	3	2	1
B 日本は、安全で安心して暮らせる国だと思う。	4	3	2	1
C 日本は、こつこつと努力すれば成功するチャンスのある国だと思う。	4	3	2	1
D 日本は差別があまりなく、弱い立場とされる人々がむしろ手厚く保護されている国だと思う。	4	3	2	1
E 今の日本政府を信頼している。	4	3	2	1
F 日本の将来には明るい希望があると思う。	4	3	2	1
G 将来、日本が他国に攻撃されて、自分が被害者となる可能性について、心配しなくていいと思う。	4	3	2	1
H 将来、日本が戦争に参加して、自分が巻き込まれる可能性について、心配しなくていいと思う。	4	3	2	1
I 将来、原発事故の影響で、自分が被害者となる可能性について、心配しなくていいと思う。	4	3	2	1
J 将来、日本の伝統や慣習が失われ、社会の雰囲気が悪くなる可能性について、心配しなくていいと思う。	4	3	2	1
K 今後、日本国内に外国人が増加することは、総合的に見ると良いことだ。	4	3	2	1

I-8 日本社会や政治に関わる価値観

	4 う 全 く そ う 思	3 え ば そ う 思 う ど ち ら か と 言	2 え ば そ う で は な い と 思 う	1 全 く そ う で は な い と 思 う
A 対立を好まず、「協調性」を大切にする日本的なやり方にしたがえば、間違いはないと思う。	4	3	2	1
B 日本は「内向き」過ぎるところがあるので、もっと外に目を向けたほうがいい。	4	3	2	1
C 国を愛する心をしっかり持とうと心がけている。	4	3	2	1
D 社会問題や政治に関心があり、知識を得ようと心がけている。	4	3	2	1
E 自分や家族のことが優先で、社会問題や政治について考える気にならない。	4	3	2	1
F 自分の力は小さいので、社会問題や政治について不満を持って仕方がないと思う。	4	3	2	1

I-9 自分自身の人生に対する現状評価

	4 全くそう思う	3 どちらかと言えば そう思う	2 どちらかと言え ば そうではないと思 う	1 全くそうではない と思う
A 総合的に見て、自分の現状に満足している。	4	3	2	1
B 今までの人生を振り返って、達成感がある。	4	3	2	1
C 自分と近い仲間たちと交流する機会に恵まれ、深い絆を築けていると思う。	4	3	2	1
D 自分と異なる世界の人たちと出会う機会に恵まれ、視野を広げられていると思う。	4	3	2	1
E 自分は人の役に立っていると思う。	4	3	2	1
F 自分は幸せだと思う。	4	3	2	1
G 自分の将来に明るい希望を持っている。	4	3	2	1

I-10 自分自身の人生に関わる価値観

	4 全くそう思う	3 どちらかと言え ば そう思う	2 どちらかと言え ば そうではないと思 う	1 全くそうではない と思う
A 今後の人生では、無理をしてでも、高い目標を立ててチャレンジしようと思っている。	4	3	2	1
B 今後の人生では、人並みに安定した暮らしを手に入れるために、現実的に考えて行動しようと思っている。	4	3	2	1
C 今後の人生では、平凡でもいいから、人並みの幸せを手に入れることが大事だと思っている。	4	3	2	1
D 今後の人生では、組織に縛られない自由な考え方を追求することが大事だと思っている。	4	3	2	1
E 今後の人生では、人とは異なる自分の個性を磨くことが大事だと思っている。	4	3	2	1
F 今後の人生では、自分の利益と関係なく、自分の身内や仲間のためを考えて行動しようと思う。	4	3	2	1
G 今後の人生では、自分の利益と関係なく、広く社会に役立つことを考えて行動しようと思う。	4	3	2	1

II-5 あなたの居住歴について、以下から最も近い選択肢ひとつに○印を付けてください。

- A 今住んでいる地域が「地元」であり、他の地域で暮らしたことがない。
- B 今住んでいる地域が「地元」であり、他の地域の学校を卒業(または中退)後、戻ってきた。
- C 今住んでいる地域が「地元」であり、他の地域で就職後、戻ってきた。
- D 結婚のため今住んでいる地域に移ったが、他の地域が「地元」である。
- E 仕事のため今住んでいる地域に移ったが、他の地域が「地元」である。
- F 就学のため今住んでいる地域に移ったが、他の地域が「地元」である。
- G 住み替えのため今住んでいる地域に移ったが、他の地域が「地元」である。
- H 家族の都合で今住んでいる地域に移ったが、他の地域が「地元」である。
- I その他()

II-6 あなたがこれまでに参加してきた地域活動・社会活動の関わりについて、以下に挙げた活動の種類ごとに、最も近いと考えられる番号にひとつずつ○印をつけてください。あなたの参加した活動の分類が難しい場合は、「その他」に具体的に書いてください。

	4	3	2	1
	積極的な関わり	一般的な関わり	消極的な関わり	全く関わりがない
A 趣味関係(スポーツを含む)のグループの活動	4.....	3.....	2.....	1.....
B 職場参加としての地域活動・社会活動	4.....	3.....	2.....	1.....
C 地縁組織の活動(町内会・自治会・青年団・消防団、祭の運営等)	4.....	3.....	2.....	1.....
D 学校・保育所・幼稚園の保護者・同窓生組織の活動	4.....	3.....	2.....	1.....
E 業界団体・同業者団体・労働組合の活動	4.....	3.....	2.....	1.....
F 政治団体の活動	4.....	3.....	2.....	1.....
G 宗教団体の活動	4.....	3.....	2.....	1.....
H 上記以外のボランティア団体・消費者組織・NPO等の活動	4.....	3.....	2.....	1.....
I その他()				

II-7 ここ一年の間、あなたは以下の場所に出かけた頻度を教えてください。それぞれの場所について、最も近いと考えられる番号にひとつずつ○印を付けてください。

	4 週に 数日 程度	3 月に 数日 程度	2 年に 数日 程度	1 出 か け て い な い
A 現住所の自治体の中にある大型商業施設・大型小売店	4.....	3.....	2.....	1
B 現住所の自治体の外にある県内の大型商業施設・大型小売店	4.....	3.....	2.....	1
C 国内の県外地域	4.....	3.....	2.....	1
D (Cのうち)首都圏・関西圏などの国内の大都市	4.....	3.....	2.....	1
E 日本国外	4.....	3.....	2.....	1

II-8 あなたの最終学歴について、ひとつ選んで○印をつけてください。(高卒で大学中退の場合は、高卒とみなします)

- A 在学中(大学または大学院)
- B 在学中(短大または高専)
- C 在学中(専門学校)
- D 大学卒または大学院卒
- E 短大卒または高専卒
- F 専門学校卒
- G 高卒
- H 中卒
- I その他()

II-9 ここ1か月の間のあなたの**就業状態と雇用形態**について、以下から**最も近い選択肢ひとつ**に○印を付けてください。(ただし、在籍しながら休職中の人は休職直前の状態について、兼職されている方は主な仕事ひとつについてお答えください)

- A 仕事を主にしている、正規雇用(フルタイム)の仕事で収入を得た。
- B 仕事を主にしている、自営業主またはその家族従業員として収入を得た。
- C 仕事を主にしている、会社経営者または役員として収入を得た。
- D 仕事を主にしている、パート・アルバイト・派遣・有期契約の非正規雇用の仕事で収入を得た。
- E 家事を主にしつつ、正規雇用以外の仕事もして収入を得た。
- F 通学を主にしつつ、正規雇用以外の仕事もして収入を得た。
- G 家事を主にしている、仕事で収入を得ていない。
- H 通学を主にしている、仕事で収入を得ていない。
- I 家事も通学もしておらず、仕事で収入も得ていない。

II-10 【II-9で「仕事で収入を得た」と答えた人だけお答えください】あなたの主な仕事の**職業の種類**に関して、以下から**最も近い選択肢ひとつ**に○印を付けてください。分類が難しい場合は、「その他」の回答欄に仕事内容を書いてください。

- A 専門・技術(研究者、教員、技術者、看護師、保育士等)
- B 管理(会社・団体などの課長以上)
- C 事務(係長以下の一般事務)
- D 販売(販売員、セールス、不動産仲介等)
- E サービス(理容師・美容師、介護職員、調理人、接客等)
- F 製造作業・機械操作(製品の製造・検査、機械の組立・整備・製造等)
- G 輸送・機械運転(トラック運転手、バス運転手、建設機械運転手等)
- H 運搬・清掃・包装(郵便配達、荷物運搬、清掃員、包装作業等)
- I 建設作業(とび職、左官、土木工事、採掘等)
- J 保安(警察官、消防士、警備員等)
- K 農林漁業
- L その他()

II-11 【II-9で「仕事で収入を得た」と答えた人だけお答えください】あなたの主な仕事の勤務先の業種または業務内容に関して、以下から最も近い選択肢ひとつに○印をつけてください。分類が難しい場合は、「その他」の解答欄に、勤務先の業種または業務内容を書いてください。

- A 農林漁業・鉱業
- B 建設業
- C 製造業
- D 電気・ガス・熱供給・水道
- E 情報通信
- F 運輸・郵便(旅客運送、貨物運送、郵便配達等)
- G 卸売・小売(物品の販売を行っている店舗、事業所等)
- H 金融・保険
- I 不動産・金品売買
- J 飲食店・宿泊サービス
- K 生活関連サービス(美容院、クリーニング店、スポーツ施設、娯楽施設等)
- L 専門技術サービス(研究所、デザイン事務所、法律事務所、経営コンサルタント等)
- M その他のサービス(農業協同組合、自動車整備、各種の修理業等)
- N 教育・学習支援(学校、幼稚園、図書館などの社会教育機関、学習塾等)
- O 医療・福祉(病院・医療施設、保育所、介護事業、社会福祉事務所等)
- P 上記に分類されない公務員
- Q その他()

II-12 あなたが収入のある仕事のために費やしている時間は、一週間合計ではぼどれほどですか。最近の一般的な状況について数字でお答えください。(残業時間を含む。休憩時間は除く。)

	時間(一週間合計)
--	-----------

II-13 あなたが家事をしている時間(日常生活に必要な炊事、洗濯、買い物、掃除等。育児、介護も含む)は、一週間でぼどれほどですか。最近の一般的な状況について数字でお答えください。

	時間(一週間合計)
--	-----------

【府中町調査最終ページ】

II-14 あなたの**個人年収**(税込。本年度見通し。)と**世帯年収**(税込。同じ住居に住み、生計を同じくする人たち全員の個人年収を合わせた額。一人暮らしの方は個人年収と同額になります。)のそれぞれについて、以下から**最も近い選択肢の記号 A~H**をひとつずつ**回答欄**に書いてください。

- A 100 万円未満
- B 100 万円台
- C 200 万円台
- D 300 万円台
- E 400~500 万円台
- F 600~700 万円台
- G 800~900 万円台
- H 1000 万円以上

個人年収	世帯年収
------	------

II-15 あなたの**居住地区**を以下の**選択肢**からひとつ選び、**A~E**のいずれかに**○印**を付けてください。

A 府中小学校区	(本町一~二丁目、本町四~五丁目/鶴江一~二丁目/大須一~四丁目/宮の町一丁目・三丁目/大通二丁目6街区/大通三丁目)
B 府中南小学校区	(鹿籠一~二丁目/柳ヶ丘/桃山一~二丁目/青崎南・青崎中・青崎東/千代/新地)
C 府中中央小学校区	(宮の町二丁目/茂陰一~二丁目/八幡一丁目・三~四丁目/緑ヶ丘/大通一~二丁目(6街区を除く)/浜田一~四丁目/浜田本町)
D 府中東小学校区	(宮の町四~五丁目/瀬戸ハイム一~四丁目/八幡二丁目/山田一~五丁目)
E 府中北小学校区	(桜ヶ丘/清水ヶ丘/城ヶ丘/みくまり一~三丁目/石井城一~二丁目/本町三丁目)

質問は以上です。長時間にわたり、ご協力を誠にありがとうございました。

【三次市調査最終ページ】

II-14 あなたの**個人年収**(税込。本年度見通し。)と**世帯年収**(税込。同じ住居に住み、生計を同じくする人たち全員の個人年収を合わせた額。一人暮らしの方は個人年収と同額になります。)のそれぞれについて、以下から**最も近い選択肢の記号 A~H**をひとつずつ**回答欄**に書いてください。

- A 100 万円未満
- B 100 万円台
- C 200 万円台
- D 300 万円台
- E 400~500 万円台
- F 600~700 万円台
- G 800~900 万円台
- H 1000 万円以上

個人年収	世帯年収
------	------

II-15 あなたの**居住地区**を以下の**選択肢のなかから一つ選び、○印**を付けてください。

A 三次地区	(日下町・三原町・三次町)
B 河内地区	(穴笠町・東河内町・西河内町・小文町・山家町)
C 和田地区	(向江田町・和知町)
D 川西地区	(上田町・有原町・三若町・石原町・海渡町)
E 田幸地区	(糸井町・大田幸町・小田幸町・木乗町・志幸町・塩町)
F 神杉地区	(江田川之内町・高杉町・廻神町)
G 酒屋地区	(東酒屋町・西酒屋町)
H 青河地区	
I 川地地区	(上川立町・下川立町・上志和地町・下志和地町・秋町)
J 粟屋地区	
K 十日市地区	
L 八次地区	(南畑敷町・畠敷町・四拾貫町・後山町)
M 君田町	
N 布野町	
O 作木町	
P 吉舎町	
Q 三良坂町	
R 三和町	
S 甲奴町	

質問は以上です。長時間にわたり、ご協力を誠にありがとうございました。

V. 「広島 20～30 代住民意識調査」報告書（2015 年 7 月）

府中町、三次市における 20～30 代の若者の生活実態、現状に対する評価や価値観についてのアンケート調査結果に、轡田先生による学術的な分析を加え、『広島 20～30 代住民意識調査』報告書として、一般に供することが可能となった。マツダ財団としては、今回の調査を通して、広島の若者が抱える本質的な問題が明らかになり、若者が希望を持てる社会の実現のためのベースデータとして、広く活用されることを希望する。同時に、今回の調査結果を、若者自立支援事業へと反映をさせていくことを計画する。

報告書では、アンケートの各質問項目（生活に対する評価、仕事に対する評価、地域に対する評価、日本社会・政治に対する評価、人生に対する評価）に関わる分析に加えて、総括として浮き彫りになってきたポイントが記載される。以下はその総括部分のサマリーである。

1. 地方暮らしは決して楽ではない

広島の 20～30 代の全体像としては、社会経済的な不安が総じて大きく、約 3 分の 2 は金銭的余裕がないと考え、過半数は現状の給料・報酬に満足していない。自分の仕事の将来や、地域の雇用状況についても希望を持つ人は少ない。一方で、収入面では劣っても、地方暮らしののんびりしたライフスタイル、という考え方があり、長時間労働よりも余暇を優先したいという考えを持つ人が 7 割程度もいる。労働時間を見ると全国平均と比較しても長く（府中町・三次市ともに男性の 2 割以上が週 60 時間以上働いている）、地方は大都市よりも仕事が楽という考え方は幻想と言ってよい。

女性の仕事満足度は、府中町よりも三次市のほうが高い。配偶者・子どもがいる比率も比較的高く、三次市は親や配偶者の親と同居・近居している比率が高い（三次市 8 割、府中町 6 割）ことから、出産・育児を経ても就業する傾向が比較的強い。就業と子育ての両立が、自分の親への依存によって何とか成り立っている人が多いとみられる。

2. 地域満足度の意味するもの

地域の総合的評価について、府中町が 9 割近く満足であるのに対し、三次市は 6 割にも満たないなど、多くの項目について、圧倒的に府中町は三次市より現状評価が高い。これは個人や世帯の収入とは全く関係がなく、ほとんど地域間の消費環境格差によって説明される。巨大ショッピングモールを核とするような地方都市の満足度への影響力は大きく、そこへのアクセスが地域の満足度を決定する最大の要因と言っても過言ではない。ただし、若者は都市度の高い場所を単に求めているわけではない。府中町の 8 割が一生暮らす場所として「広島のような地方都市」が望ましいと考えている。三次でも 6 割がそのように考えており、田舎志向の若者を大きく上回っている。

地域そのものの現状評価については、府中町と三次市の間には大きな格差があるものの、それが総合的な「生活満足度」や「幸福度」の格差にはつながっていない。各種の満足度で、はっきりとした差がついているのは、地域満足度のみとなった。三次市の若者の生活圏が三次市という狭い地域に限られるものではなく、モビリティの大きさが地域満足度の低さを埋め合わせている。三次市の 20 代はその 7 割以上が月に数回以上の頻度で市街の大型商業施設・大型小売店を訪れている。地理的条件によって生活満足度や幸福度、そして自己の現状評価が下がるということは全くない。

3. ソーシャル・ネットワーク格差

各種地域活動・社会活動への参加度は、総じて三次市のほうが府中町よりも高い。ただし、その参加度の高さは、各種の満足度について同様に現状評価傾向が強いということは必ずしも言えない。

「職場参加としての地域活動・社会活動」と「趣味関係のグループの活動」への参加度が高い人たちは、地域のみならず、生活満足度や自分の現状評価についても肯定的な傾向が強い。ただし「職場参加」のグループ活動は、身近な人間関係の一体感は強める一方、社会の多様性に対する認識を弱めている傾向もある。また、「趣味関係のグループの活動」は、仲間集団だけでなく、異質な人たちとの交流への関心も高める。社会問題・政治への関心も高める。

活動の種類によって、ソーシャル・ネットワークの広がり方は異なっており、地元の人間関係を大切にする若者が増えているにしても、地域外にもソーシャル・ネットワークが広がり、視野を広げている若者のほうが各種の満足度は高いという傾向があると言える。

4. 居住歴の多様化／流動化する地域社会

居住歴の差異について考える場合、まず、「地元出身者」と「地元外出身者」の違い、そして「ずっと地元」「地域外の生活経験がある」の違いがある。

今生活する地域が地元と認識する若者は、府中町で4割、三次市では約半数であり、ずっと地元に住んでいるのは、府中町2割、三次市1割である。現在住んでいる地域外での生活経験がある者の方が圧倒的に多く、多様な居住歴からなる社会構成と考えれば、むしろ地元だけの閉鎖的な人間関係に閉じることの方がかえって難しい。

居住歴によるソーシャル・ネットワークの格差は大きいと考えられ、三次市では地域活動を中心的に担う若い世代の多くが、「地域外で就学後、Uターン」した層となっている。同級生ネットワークを核に、地縁つながりに転入者を巻き込み、地域外の人間関係も生かした魅力的な活動が多様に展開されている。大卒比率が高く、転入者と同じく外部の視点を持ち、ソーシャル・ネットワークに恵まれて地域活動のハブになっていると言える。

Uターン層(他地域で就職後Uターンを含む)は、三次市4割に対して、府中町は1割であり、この差が両自治体の間の地域活動・社会活動の参加度の違いに影響している。

一方、府中町では約4分の3、三次市は約3分の2の若者たちはいかなる地域活動・社会活動にも参加していないという事実があり、この層の意識を探ることは、地域の未来を考えていく上では重要な意味を持つと考えられる。

5. 社会経済的格差

府中町と三次市は、社会経済的な環境が大きく異なっており、これと関連して社会的属性の傾向も違いが大きい。府中町はやや高学歴傾向で、産業構造、収入についてはおおむね全国平均に近い。一方三次市は高卒を含む低学歴の比率が高く、収入は全国平均より低い。

にもかかわらず、府中町と三次市の地域差そのものは、前述の地域に対する評価に現れているくらいで、その他各種の現状評価には関連していない。

両自治体の内部において、社会経済的格差がどのように生活意識や社会意識に現れているか、について注目すべきは、収入が低い「非正規雇用(仕事為主、または家事為主)」あるいは「サービス」職の生活満足度の低さである。世帯年収400万円未満、個人年収200万円未満の場合、「各種の満足度の低さ

が際立っている。女性に多い、「家事が主の非正規雇用」では、半数程度がその生活水準は「低いほうだ」と答え、特に仕事の将来展望が暗い。

また、「世帯年収」が高ければ生活満足度、自分に関わる満足度は上がり、「個人年収」が高ければ仕事の満足度は上がっており、定収入・低学歴で「階層意識」も低い人のほうが満足度の高い暮らしをしているという逆転的な現象は存在しない。「地方のヤンキーは上昇志向がないぶん、現在の生活に満足している」というのも全くの俗説と言える。

あらゆる項目で、収入や社会階層によって「満足度の高い者」と「満足度の低い者」が二分されて、それが様々な価値観の分化と対応していることは必ずしもない。家計の状況や仕事を取り巻く環境、社会情勢に関する現状評価と将来展望に関する項目については、大半の人が厳しい評価をしている。中間層を取り巻く社会経済状況は不安の度合を高めており、階層が比較的高い者であっても将来が読めないという、不透明な時代状況であり、そちらに照らして、まずは現実的に生活の足場を築くことが大事と考える傾向は、若い世代の多数派に共有された価値観で、社会経済格差とは関係がない。

6. 自己充足（コンサマトリー）格差

「一般的な家庭と比べて、自分の生活水準が高いほうだ」と思うかどうか、という階層意識が、多くの現状評価項目と相関しており、「階層意識」が高ければ、現状肯定が強くなるという傾向がみられる。ただし、必ずしもこの「階層意識」の格差は、前項の社会経済的格差を意味しているわけではない。ここでは、「階層意識の格差」について、「自己充足（コンサマトリー）格差」と呼ぶこととするが、収入が高くなく、「階層意識」が高いプロフィール、逆に収入が特に低いわけではないが「階層意識」が低いプロフィールに着目した場合、以下四つの「自己充足（コンサマトリー）」的格差が見えてくる。

- ✓ 「20代」:年齢が低いほうが低めの階層意識の人の比率が少なく、人生をポジティブに捉えるような傾向がある。20代に見られる自己充足的な傾向、そして友人関係の満足度が高いこととの関係があると考えられる。
- ✓ 「就労時間」の違い:専業主婦や学生の階層意識は世帯年収が低いわりには低くない。これに対し、長時間労働に従事する者は同程度の収入層と比べて階層意識が低い。長い就労時間により時間的余裕がなくなり、生活の質が下がることによる。
- ✓ 「親からの独立」:「父母」と同居している人は世帯年収は相対的に高いが、階層意識は低めで、自分の現状をはじめ、各種満足度が比較的低い。「父または母」と同居している人は個人年収が低く、金銭的余裕がないと考える傾向が強い。
- ✓ 「製造作業・機械操作」従事者:特に年収が低いわけではないが、単身や親との同居が多く、有配偶率が低い。職場をはじめとする人間関係に関する充足度が低く、生活や仕事についても突出して「自己充足的ではない」プロフィールとなっている。

自己充足的な人たちは、社会経済的にはネガティブな状況認識をしつつも、生活や人生に対する見方については楽観的である。階層意識については、収入や生活レベルなどの点における卓越的な感覚というより、経済的な意味での満足水準を切り下げ、現在の生活のクオリティで「足るを知る」間隔であると考えられる。

7. ダウンシフターの限界—さとりきれない若者たち

多少生活水準が下がっても、労働時間を減らし、余暇や消費生活のクオリティの高い生活を志向する

人をダウンシフターと呼び、そのような、余暇の時間を大切にするために仕事で長時間働きたくない、と思う人は約7割いる。しかし、生活のために長時間働く必要があるという事情があり、「自分なりにお金をかけずに楽しく暮らす方法はあるので、今後生活水準が上がらなくてもかまわない」という考えは「自己充足的な生活感に通じるものがあるが、支持する人は全体で2割程度しかいない。

「満足な収入が得られるのであれば、長時間労働もかまわないと思う」や「やりがいがあれば、長時間労働でもかまわないと思う」という項目については、「階層意識」との相関はなく、自己充足格差よりも社会経済的格差のほうが重要である。前者の質問に対して否定的な人は、世帯年収400万円以上では半数近いが、世帯年収400万円未満では少なくなる。年収が低い場合、ダウンシフターを志向するより、「長時間労働で無理をしても生活水準を保つ」ほうが良いという考えになる傾向が強い。

長時間労働を肯定するメンタリティは、日本的な勤勉の倫理と深く関わるが、それがモチベーションの高さを意味するわけでは決してなく、就労時間の長さは仕事の満足度を下げる最大の要因であり、長時間労働でも収入が増えるわけではない、という調査結果に顕著に現れている。雇用と労働の状況を改善して、モチベーションを高めることは、地方の若者にとって最も優先的な課題である。

8. 問題提起

アンケート調査からは様々な「格差」の問題が見え、地方を生きていくうえでの様々な「困難」の問題が見えた。格差の解消のために、満足度が低い属性の人たちの社会的ニーズを捉えていくことが大事であり、調査活動の活性化により、ニーズを公共化していく必要がある。とかく若者の問題は地域行政の中では後回しにされ、問題が不可視化されやすく、困難を抱えた人が孤立しがちである。

一方、経済状況、社会的地位は必ずしも安定化したものではないのに、それで事足る、とする人たちもいる。自分自身が「幸福」であり、現状に「満足」であれば、自治体の住民意識調査であればそれでいいということになるが、その回答動機を考えると、むしろ現状に疑問を持つ方が自然であるとも考えられる。差別やマイノリティなどの社会問題について、感度の鈍い者と意識的である者との間に、深いリアリティ・ギャップがあるということに注意が必要である。例えば、「日本は差別があまりなく、弱い立場とされる人々が手厚く保護されている国だと思う」と言う項目について、差別される当事者、弱い立場とされる人々に近いところで考えている人であれば、なかなか「そう思う」とは答えにくいはずである。一方、「そう思う」傾向が強いのは、職場参加のグループ活動への参加度の高い人、世帯年収の高い人、あるいは国を愛する気持ちをしっかり持とうとしている人、であった。

問題提起としては、このように様々な生活感覚・社会感覚の分断線について、お互いに理解を深め合う「対話の場」を作ることが必要、というものである。「対話」は、さまざまな困難を抱えた「他者」のニーズを理解するきっかけを与えるが、それだけでなく、日常生活の中では「たいしたことのない」「誰もが我慢している」事柄として処理することを要求されている、自分自身の抱えている「個人的な問題」を共有化するきっかけも与える。

この調査報告書の分析が、地域社会の分断線について気づききっかけとなり、そのリアリティ・ギャップをめぐる「対話の場」を触発するたたき台となれば非常に意義深い。また、社会調査・世論調査を活用した対話は、さまざまなサイレント・マジョリティやマイノリティを公共の議論に呼び込み、新しい問題認識を生み出す効果があるだろう。この調査に関する活動が「対話」の導火線となり、新しい時代／世代の共通課題についての議論が活性化するきっかけとなることを願う。